

文化財保護行政の移管による新たな展開

ストーリー性を持った文化資源の発信

○「青谷上寺地遺跡」では、腐りにくい土器や石器だけでなく、木器や骨角器、織物やかご、国内初の人間の脳や骨、排泄物までが、良好な状態で大量に出土。

○弥生人の暮らしぶりが復元でき、生き生きと蘇る「地下の弥生博物館」と言われる貴重な遺跡。

○他地域の影響を受けたもの、朝鮮半島から伝わったと思われるもの、古代舟等も多く出土。

○少し離れた「青谷横木遺跡」では、渡来系の板絵や国内初となる古代の街路樹跡が発見。



当時の青谷平野イメージ



周辺の遺跡とあわせ、日本海に開かれた玄関口として大陸との交流、文化融合の拠点であったことがわかる
「交流のクロスロード」といった弥生時代の暮らしぶりに思いを馳せる歴史ロマンの拡がりを提案



歴史遺産密集地として文化資源の面的展開と発信

○各時代の遺跡が所在する歴史遺産密集地としての発信

→国内最大級の弥生時代集落である「国史跡妻木晩田遺跡」

→古墳時代(向山古墳群、石馬)、白鳳時代(上淀廃寺)、幕末(淀江台場)等が密集



山陰の「国邑」を彷彿させる遺跡の数々が古代へのロマンをかき立てる



妻木晩田遺跡



10
上淀廃寺跡の仏教壁画

「時空を超えた遺跡巡り」といった統一的なテーマに沿って、個々の文化的「点」である異なる時代の遺跡、施設の関係性について、「面」的なストーリー性をもって総合的な発信が可能

文化財保護行政の移管による新たな展開

新たな関心者層への地域文化資源の魅力発信

○地域の有する文化や魅力を、地域住民自らが企画者、参加者として関わりつつ、地域の文化遺産を知り、楽しむ機会を提供。

○地域で活動する他分野の取組とのコラボレーションにより、これまで文化遺産への関心が少ない方など、新たな関心者層に対して情報発信

「妻木晩田遺跡でヨガ」

朝日を浴びつつ、地元アーティストの音楽に合わせながらヨガを楽しむイベント

10/2(日) 6:00~7:45 ■ 参加費 1500円 ■ 定員 10名(最小催行人数1人)
■集合場所 むきばんだ史跡公園誕生の館むきばんだヨガ
※少前進行 ヨガマット、または下敷きを用意するもの、水分補給用の飲み物。タオルをご持参ください。衣類は動きやすい服を
お奨めです。
申し込み先 10/1 締切 [ai & Yooda]
(ai) ヨガインストラクター。朝日を浴びながらヨガを実践し、Yooda(地元アーティスト)の音楽を背景に、音楽に合わせてヨガを行なう。

「口語の生活の中にはこそ茶道の心得をもつて」と、新聞。思ひとちよちよ茶を喫でる儀もあもてなしさせていただけあります。本年は、先日、著者が終ったばかりの国宝館・妻木晩田遺跡の復元住居でお茶会を開きました。アカモチは薄茶席を張り替わす。秋風の季節を改め、運転お茶席が醸し出す、一年年の時を過ぎなつかしくて。園芸街くわくわ

16(日) ■ 参加費 A 13:00~14:00円 B 13:00~16:30円 ■ 定員: 薄茶席 A・B 各10人、薄茶席C 50人
■集合場所 A: 11:00円 薄茶席 C: 600円 ■ 定員: 薄茶席 A・B 各10人、薄茶席C 50人
■むきばんだ史跡公園誕生の館むきばんだヨガ開催時間: 10時~16時(午後休憩1時間)、妻木晩田遺跡の茶室では16時~17時(午後休憩1時間)、妻木晩田遺跡の茶室では16時~17時(午後休憩1時間)、妻木晩田遺跡の茶室では16時~17時(午後休憩1時間)

【茶人・三人会】(阿部吉弘・緑田宗陽・鶴田宏實)】
茶人は見え上げる中で、日々の暮らしの小物(茶)と話す。緑田は話題についてそれを聴き、阿部はそれを聞き、鶴田は話を聞き、お茶を飲んで、お茶を味わう。妻木晩田遺跡の茶室では、お茶を飲んで、お茶を味わう。妻木晩田遺跡の茶室では、お茶を飲んで、お茶を味わう。

「妻木晩田史跡公園でお茶会」
遺跡内にある復元建物内でお茶を点て、幻想的な時間と空間を提供

郷土愛醸成による地域の担い手の育成

○地域住民や学生を対象とした企画や、住民と連携した企画実施をすることで、地域への理解や愛着の増加とともに、地域活性化への新たな担い手育成にもつなげていく。



上淀廃寺跡での解説ツアー 白鳳人装束の学芸員による解説



天神垣神社にある重要文化財「石馬」の特別公開

